

市民参加に関する新しい事業や取組
(令和5年3月16日から令和5年6月16日までに広報発表されたもの)

広報発表日	概要	所属
3月17日	<p>東稜高校「東稜大作戦」と地下鉄「エスカレーターマナーアップ」キャンペーンのコラボ企画の実施について</p> <p>京都府立東稜高等学校で、令和4年4月から生徒と教職員が、「東稜大作戦」として、地域に根差した信頼される学校づくりを行っており、その一環として、多くの生徒が地下鉄を利用していることから、京都市交通局と連携した活動を行うこととなりました。</p> <p>この度、京都市交通局がかねてより取り組んでいる地下鉄のエスカレーター利用時のマナー啓発について、「エスカレーターマナーアップ」キャンペーンとして、東稜高校と連携して実施することとしましたのでお知らせします。</p> <p>地下鉄の駅において、生徒と教職員がデザインしたキャンペーンチラシ等の配布や、生徒による駅構内放送でのエスカレーター利用時のマナー啓発を実施し、事故防止と安全確保につなげます。</p> <p>1 目的 エスカレーターを利用される際は、「歩かず、手すりを持って、立ち止まって」利用していただくよう啓発を実施し、事故防止と安全の確保に努める。</p> <p>2 チラシ等の配布及び駅構内放送による啓発</p> <p>(1)日時と場所等</p> <p>ア 令和5年3月23日 午前8時～ 約30分間 東西線醍醐駅 生徒10名程度参加</p> <p>イ 令和5年3月24日 午前8時～ 約30分間 東西線三条京阪駅 生徒5名程度参加</p> <p>ウ 令和5年3月28日 午前8時～ 約30分間 烏丸線丸太町駅 生徒10名程度参加</p> <p>(2)放送内容例</p> <p>私たちは、東西線の小野駅と醍醐駅を通学で利用する、京都府立東稜高等学校の学生です。 東稜高等学校高等学校は、地下鉄の「エスカレーターマナーアップ」キャンペーンを応援しています。 皆さんも、エスカレーターは歩かず、手すりを持って、立ち止まって利用しましょう。エスカレーターでの事故をなくしましょう。</p> <p>(3)配布するチラシとティッシュのデザイン 京都府立東稜高等学校の生徒と教職員がデザインしたもの</p>	<p>交通局 高速鉄道部 運輸課</p>

広報発表日	概要	所属
3月20日	<p>3月20日、京都市と小田急電鉄株式会社が「持続可能な地域コミュニティの推進に係る連携協定」を締結～自治会・町内会向けSNSを導入し、地域課題をDXで解決！住民主体の地域活動を支援～</p> <p>京都市（市長：門川 大作）と小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司）は、令和5年3月20日（月）に「持続可能な地域コミュニティの推進に係る連携協定」を締結しました。</p> <p>京都市は、長年にわたり育んできた市民力・地域力・文化力を活かして、持続可能な京都のまちの実現に向けた取組を推進しています。また、小田急電鉄は経営ビジョン「UPDATE 小田急～地域価値創造型企業にむけて～」を掲げ、地域の課題解決を通じた持続可能なまちづくりに取り組んでいます。</p> <p>京都市においては、ライフスタイルや価値観の多様化、単身世帯の増加などを背景に、地域コミュニティのつながりの希薄化や活動の担い手不足が顕在化しており、「地域コミュニティ活性化推進条例」の下、自主的かつ活発な地域活動の支援に注力しています。</p> <p>本連携協定では、小田急電鉄が提供する自治会・町内会向けSNS「いちのいち」のデジタル回覧板機能により、地域住民、自治会役員等の情報共有の迅速化や効率化を実現し、生まれたゆとりや時間を地域活動に活用いただくことで地域活性化を目指します。さらに電子掲示板機能から、サークル活動など、地域内の繋がりづくりや、災害時における避難所の案内や円滑な安否確認の実施など、市民生活のさまざまなシーンに役立てていければと考えています。</p> <p>両者は連携協定を通じたパートナーシップの構築により、西京区檜原学区等において、学区や自治会における普及・活用の実証をモデル的に進め、この取組をもとに「いちのいち」を市内全域で多くの地域に展開していくことを目指します。また、「大学のまち 京都」ならではの多世代交流の創出等を通じた地域コミュニティの活性化など、「地域力」を未来へつなぎ、持続可能な京都のまちを目指し連携してまいります。</p> <p>1 締結日 令和5年3月20日（月）</p> <p>2 目的 パートナーシップを契機とした情報や意見の交換を通じた地域コミュニティの活性化に資する取組を創造し、京都市での持続可能なまちづくりに協働します。</p> <p>3 連携内容 ・ 一人一人の多様性を踏まえた誰もが参加しやすい地域づくりに関する事項 ・ 多様な地域の特性に即した地域活動の推進に関する事項 ・ その他社会課題やSDGs への貢献に関する事項</p> <p>【参考】自治会・町内会向けSNS「いちのいち」について ・ 昨今、地域課題となっている自治会・町内会運営の担い手不足や、回覧板などアナログな情報発信、若年層を中心とした地域との繋がり希薄化、高齢者の社会的孤立、災害時の迅速な情報伝達などの諸課題を、住民の方が主体となって解決するために活用いただける自治体・町内会向けのSNS です。 ・ 上記の課題を解決するため、小田急電鉄の社内事業アイデア公募制度第1号案件として企画され、2020年6月からサービス提供を開始しています。小田急沿線の神奈川県秦野市・川崎市、東京都町田市・世田谷区をはじめ約400自治会・町内会にご利用いただいています（2023年2月末時点）。</p> <p>【機能】電子回覧板（情報伝達機能）、電子掲示板（コミュニティ機能）、安否確認（災害機能）</p>	文化市民局 地域自治推進室 地域づくり推進 担当

広報発表日	概要	所属
4月6日	<p>公民連携・課題解決推進事業「KYOTO CITY OPEN LABO」 先進技術を活用した館内誘導の実証実験について～京都市京セラ美術館の意匠を守りながら直感的で分かりやすい行先案内～</p> <p>京都市と三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社は、公民連携・課題解決推進事業「KYOTO CITY OPEN LABO」において、京都市京セラ美術館の意匠を守りながら直感的で分かりやすい館内案内の実現に向けて、下記のとおり取組を進めていくこととなりましたので、お知らせします。</p> <p>1 背景 公立美術館として日本で現存する最古の建築である京都市京セラ美術館は、令和2年度のリニューアルオープンにより、これまでの歴史的景観を残しつつも増改築を行い、機能が飛躍的に向上しました。 一方で、複数の出入口を設けたことやメイン入口が地下1階となったこと、また、同時に複数の展覧会を開催していることなどからより分かりやすい館内案内を行う必要がありました。 今後の観光の本格的な回復を見据え、美術館の意匠を守りつつ、より多くの皆さまが快適にご利用いただけるよう、先進技術を活用した館内誘導の実証実験を行い、伝統と革新が交わり進化する美術館を目指すものです。</p> <p>2 提案企業 三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社 事業内容：情報システムの企画設計・開発・製作ならびに販売、ソリューションの提供</p> <p>3 取組内容 京都市京セラ美術館内に照射型案内サイン「てらすガイド」及び「アバター型AIチャットボット」の実証機を設置し、先進技術を活用して意匠を守りつつ来館者のよりスムーズな館内誘導の実証実験を行います。</p>	<p>文化市民局 美術館総務課</p> <p>総合企画局 総合政策室</p>
広報発表日	概要	所属
4月28日	<p>民間事業者等と連携したゴールデンウィークにおける混雑緩和対策等について</p> <p>京都市、京都市交通局及び（公社）京都市観光協会では、関係機関との連携の下、市民生活と調和した、持続可能な京都観光の実現に向けた取組を進めています。ゴールデンウィークに向けては、西日本旅客鉄道株式会社及び東海旅客鉄道株式会社との連携により、鉄道を活用した旅行ルートや「京都観光快適度マップ」による混雑状況、混雑予測等を駅構内、車内放送、WEB、SNSで発信します。また、新たな取組みとして一般社団法人ツーリストシップと連携し、観光客の皆様楽しく京都観光モラルを知っていただく、「京都観光モラル×ツーリストシップコラボ企画 旅先クイズ会」を実施しますのでお知らせします。</p> <p>1 西日本旅客鉄道株式会社との連携 取組1：移動生活ナビアプリ「WESTER」による発信 取組2：JR 西日本列車運行情報 公式Twitter による発信 取組3：車内放送 取組4：京都駅構内での「地下鉄・バス1日券」の臨時販売 取組5：京都駅構内等におけるデジタルサイネージ及びリーフレット等を活用した啓発</p> <p>2 東海旅客鉄道株式会社との連携 取組1：新幹線京都駅構内における京都駅前バス乗り場ライブカメラ映像の配信 取組2：新幹線京都駅構内における特設観光ブースの設置 取組3：新幹線京都駅構内での「地下鉄・バス1日券」の臨時販売</p> <p>3 「京都観光モラル×ツーリストシップコラボ企画 旅先クイズ会」</p>	<p>産業観光局 観光MICE推進室</p> <p>都市計画局 歩くまち京都推進室</p> <p>交通局 企画総務部 営業推進課</p> <p>京都市観光協会</p>